



鳥城会50年の歩み

西19期（昭和43年卒）
鳥城会会長 小島憲道



今年は鳥城会創設50周年を迎えますが、立ち上げから現在に至るまで繋がりを継続し、発展させて下さった鳥取一中、鳥取高女、鳥取西高の方々に感謝申し上げます。ここでは、鳥城会50年の歩みを紹介したいと思えます。記録によりますと、昭和30年（1955年）頃、関東地区の同窓会として、鳥取西高関東同窓会が結成されましたが、鳥取一中・鳥取高女・鳥取西高の同窓生を包括する大きな組織であったことから、殆ど活動実態のない状態でした。そのため、鳥取一中の42〜46期生が中心となって昭和49年（1974年）、鳥取一中独自の組織として鳥城会が創設され、三井アルミ社長の栗村龍象氏（鳥取一中34期）が初代会長となりました。一方、鳥取高女には独自の組織として東京翠紅会がありまして、10年後の昭和58年（1983年）には、会則の改訂が行われ、鳥取西高卒業生の参加が始まり、さらに約20年後の平成16

第	就任年	会長	期	卒業	所属（就任当時）
初代	1974〜	栗村龍象	一中34期	1922	三井アルミ工業社長
二代	..	谷口 義夫	一中31期	1919	東邦化学工業社長
三代	..	山本 勉	一中39期	1927	古河電池社長
四代	..	河原 卯太郎	一中42期	1930	農林省局長
五代	1992〜	渡辺 誠毅	一中44期	1932	朝日新聞社長
六代	1998〜	山根 眞樹生	一中54期	1942	新日本製鉄副社長
七代	2003〜	中野 純	一中61期	1948	朝日新聞取締役
八代	2008〜	篠田 伸夫	西13期	1962	自治省消防庁次長
九代	2015〜	吉田 政雄	西16期	1967	古河電工会長
十代	2019〜	小島 憲道	西19期	1968	東京大学名誉教授

年（2004年）には、全面的な会則の改訂が行われ、名実ともに鳥取一中・鳥取高女・鳥取西高を包括する鳥城会になりました。当時の鳥城会では、55歳を迎える同窓生が学年幹事を務め、1年に1度の総会を運営する形でした。学年幹事の引継ぎも前年度に1年先輩から知らされ、鳥城会の存在を初めて知るような状態でした。現在では、令和3年（2021年）に鳥城会のホームページを開設することにより、鳥城会の活動情報の共有も充実してきました。また新入会員歓迎会を行うことによ

50周年記念号

り、大学生や若い社会人も総会に参加するようになってきました。鳥城会が同窓生に必要とされる存在になるよう、今後とも皆様のご理解とご支援を宜しくお願い致します

「鳥城会50周年」によせて



西1期（昭和25年卒）
岩崎 美重子

鳥城会設立五十周年御目出度う御座います。時の絶つのは早いもので私達一廻生は卒業後七十四年の歳月を送りました。私達は戦争の真只中昭和十九年小学校卒業。「男女七歳にして席を同じうせず」の時代で鳥取一中、二中、鳥取高女を受験し入学しました。翌二十二年に終戦となり学制改革で、六三三制となりましたが、そのままで二十三年に四年生で卒業しました。四月より一高、二高、三高（女子校）となり高二を修了、今度は教育基準法第五条男

発行 鳥城会事務局
03 (6267) 4550
制作 (有) august design
03 (4405) 6258

女共学」になり「鳥取西高」「鳥取東高」となり三高はなくなり、私達は校区により西高生となりました。四月登校すると私達三組は、一高、二高、高女の集まりでした。物理、数学の間に調理を入れた元の校舎で調理を楽しんだ事も有りました。西高には明治からの長い歴史が有ります。後輩の方々もどうぞ頑張つて新しい歴史を作ってください。疲れたら久松山の緑を思い出して深呼吸。きつと心も晴れる事と思います。



西13期（昭和37年卒）
第八代会長
篠田 伸夫

平成9年、消防庁次長であった私のところに、西高のある先輩から突然の電話があった。「来年の総会は君たちの年次が当番だ」。私は、幹事であった関東地区在住者の同期会を鳥城会総会にぶつけることにした。12月5日開催の総会は、総勢80名中30名を我が同期が占めた。この総会は鳥城会にとって一つの画期となった。第6代となった山根眞樹生新会長はこう挨拶した。「今回の会則改正で

一中と西高の壁を取っ払い、鳥城会も西高の時代となった」と。私も新設のレクリエーション担当副会長を拝命。そこで編み出したのが今に続く「史跡巡り」である。私が初の西高卒の第8代会長となったのは平成20年11月8日のこと。7年間会長を務め、退任に当たって私はあることを夢見た。鳥取中学の校舎新築のために三の丸を提供して下さった池田家のご恩に報いるため、第16代当主池田百合子様に「特別榮譽会員」に就任していただきたかったのだ。面会は夢の実現につながった。



西13期（昭和37年卒）
リンガーハット名誉会長
米濱 和英

鳥城会設立五十周年、誠にめでとうございます。私は卒業して62年になりました。高校3年の冬、父の死により商売が破綻してしまいました。それで賀露の家・屋敷・畑・工場、のちに墓の整理をして、一家が長崎に移転しました。私はそれから、とんかつ「浜かつ」の創業に加わり、リンガーハットのチェーン展開をするようになりました。振り返って見ますと、長崎・福岡・東京と商売でのつながりの友人はそれなりに多く出来ましたが、しかし、青春時代を共にすごした仲間とは、気兼ね無く本音で話ができます。いつまでも大切にしたいものです。

朝5時配信

投稿記事が入力できる

保存記事がすぐ読める

1週間分の記事閲覧ができる

月額2,600円 (税込)

※決済はクレジットカード

新聞をお届けできない地域にお住まいの方限定で電子版をご契約できるようにしました。

日本海新聞

日本海新聞のホームページ
<https://www.nnn.co.jp/>

紙の新聞をご購読の方は
購読料+0円で
電子版がご利用いただけます

お申し込みはこちら▶

アプリのダウンロードはこちら!

Android Google Play
iOS App Store

ふるさこの新聞を電子版で

お問い合わせ先 新日本海新聞社デジタル戦略部

電話：0857(21)2878 (月～金 10:00～17:00 祝日除く) メール：info@nnn.co.jp



西18期（昭和42年卒）
第九代会長・顧問
吉田 政雄

まずは、鳥城会創立50周年、誠におめでとうございます。
この機会に、自分の鳥城会との関りを振り返ってみます。
2003年に林田事務局長のお声がけで当番幹事となり、同氏の人形町の会社で同窓会運営のイロハを教わって、夕方には「今半」でご馳走になりました。10年の歳月が流れ、2013年初に永年事務局長を務められた同氏が逝去されました。時の会長（8代目）の篠田氏は、会の事務運営の再構築で大変な苦勞をされました。彼が執行部を現在の

ような形に造り直された後、私が2015年に9代目の会長となりました。4年間の会長職の後、現在の会長（10代目）の小島氏に任を引継ぎました。
母校の作曲家・岡野貞一の代表作「故郷」の歌詞に「忘れがたきフルサト」とあります。故郷を離れた人が、同郷人と出会い、故郷の風物について語らう時、感慨を覚えて絆が深まっていきます。鳥城会が、そのような場であり続けるならば、次の100周年も夢ではないと期待しています。



西15期（昭和39年卒）
三角 幸子

メッセージのご依頼をいただき、思い返してみましたが、古

いことはかなり記憶があいまいなので、スマホを検索すると30周年の年、2004年発行の『鳥城会報』が開いて、懐かしく読みふけりました。

前年2003年の総会で一中最後の61期卒業の中野純氏が会長に就任されるなど、一中と西高の節目のころだったようです。当時は一中、高女、西高の卒業生が参加する会でしたので、鳥取の父母の学友の方もいらして、懐かしいお話を聞かせていただけるのも楽しみでしたが、少しずつ人数が減って、寂しくなっていました。

紙面には林田達郎、三浦三郎両氏のお名前も見えます。ご存じの方も多いと思いますが、林田さんは長年にわたって事務局長として鳥城会の活動を支え、また後輩の世話をよくしてくださいました。この方なくして今日の鳥城会の存続はなかったかもしれないと思うほどです。三浦さんは林田さんの西高同期の親友で、お二人で仲よく鳥城会に尽くしてくださいました。

実は私が鳥城会に参加したのは、三浦さんのご子息と私の娘が大学の同じサークルに入っていたことがきっかけだったのです。
2013年に林田さんが逝去され、約80名が参加して「林田達郎さんを偲ぶ会」が催されました。その前日くらいに当時の篠田伸夫会長から突然司会に指名されて当惑しましたが、林田さんへの恩返しと思ってがんばったことは、今ではよい思い出になっています。



西29期（昭和53年卒）
河崎 妙子

50周年おめでとうございます。鳥城会に初めて参加させていただいたのは20代の半ばの頃

でした。その当時、知り合いに誘われてのことですが、鳥取のTVや新聞でしかお目にかかったことのない雲の上の方々が多く、緊張しました。

それから30年。久しぶりに出席させていただいたら、顔見知りの方が多く、卒業以来の同級生にも会えて嬉しくなりました。それから毎年皆様に会えるのが楽しみになり、「鳥取ゆかりの史跡巡り」にも何度か参加させていただきました。中でも一番の思い出は鎌倉の史跡巡りでしょうか。かなりハードに山の上まで巡り、へとへとになったのを覚えています。でも、山を下りてからの懇親会でのビールが何とも美味しかったこと!!先輩の皆様とほんとうに楽しく会話をさせていただきました。そう、この会の良さは年代や経歴に関係なく皆様と交流できることでしょうか。ぜひ、後輩の皆様も気兼ねなくご参加いただき、今後の鳥城会を益々盛り上げていていただけることを願っております。

50周年記念 asacoのメッセージ

西64期（平成25年卒）
シンガーソングライター asaco



鳥城会、設立50周年おめでとうございます。わたしは鳥取西高を卒業して上京し、ご縁あつ

て2018年に「杏沙子」としてメジャーデビューし、現在もシンガーソングライターとして活動しております。小

学生の頃から歌手になるというのが夢でしたが、友達にも家族にも打ち明けれないまま高校生になり、西高祭で思い切つてバンドを組んで、小さな音楽室のステージで歌ったあの青春が、今のわたしを作っています。そんな原点の西高祭で昨年ライブをさせていだいたことは、この先もずっと忘れません。そ

して学生るとき落ち込んだらよく行っていた湖山池で、いつか大きな音楽フェスを開催し、湖山池を見ながら歌うことが夢です。わたしの音楽を育ててくれた大好きな鳥取に恩返しをするために、いい音楽を作り、いい歌を歌い、人としても素敵になれるようこれからも経験を積んで、たくさんの方に歌を届けられるよう、まだまだ東京でがんばります！鳥取を想って作った「とつとりのうた」という曲があります。よかったら聴いてください。
*7月に活動名を asaco に改名しました

鳥城会設立50周年おめでとうございます

造園・土木 株式会社庭吉

代表取締役 中村 輝実（西20期 昭和44年卒）

〒191-0041 東京都日野市南平 9-33-65 電話 042-593-1103